

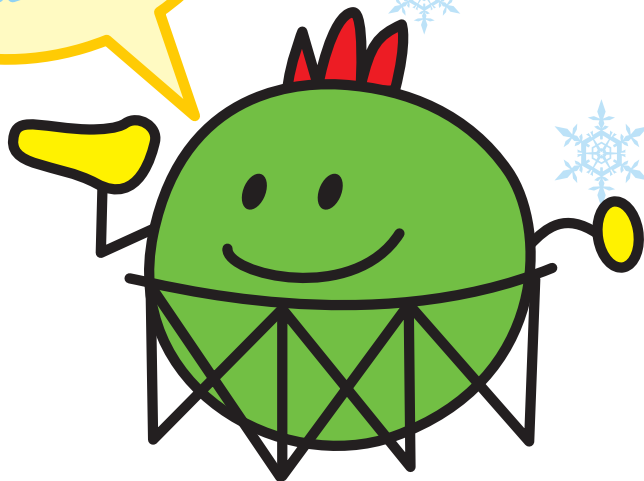
ガス機器  
給湯機  
風呂がま

保存用

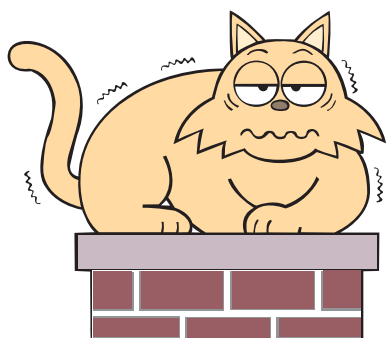
凍結時に備え、よくお読みになっ  
てお役立て下さい。

冬の  
お願い

凍結に  
ご用心!!



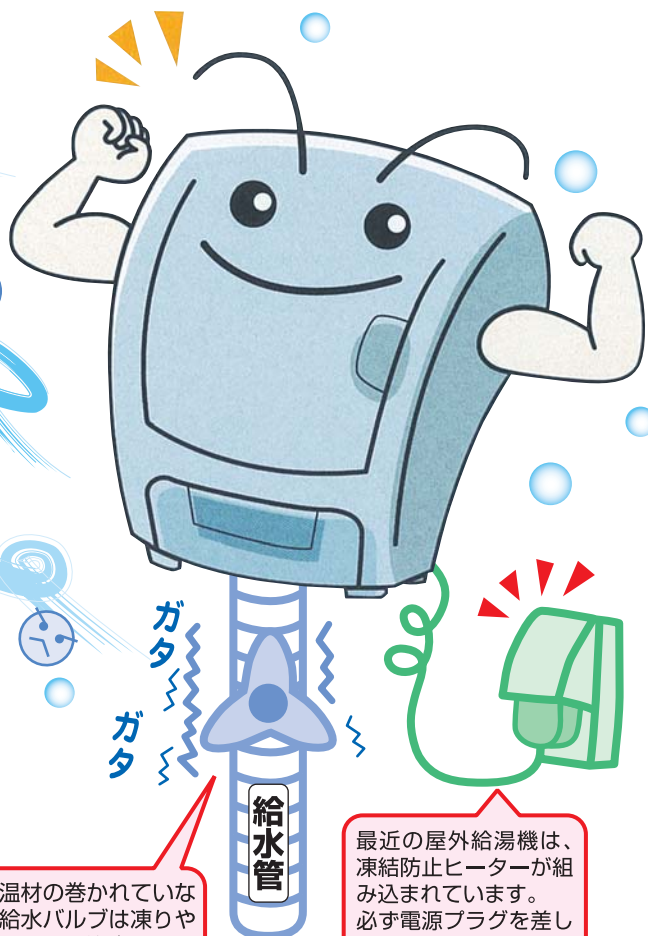
～凍結トラブルを防ぎ、ガス機器を快適に使いましょう。～



寒さの厳しい新潟の冬……。冬は凍結によりお湯がでなくなるなど、凍結トラブルが多発する季節です。冷え込みの厳しい日、北風の強い日などはガス機器本体や給水管の凍結予防を心がけましょう。

●凍結トラブルの多くは、特に給水バルブからの凍結が原因です。保温材等で保護して下さい。

ブルッときたら  
キチンと予防



保温材の巻かれていない給水バルブは凍りやすいので要注意!!

最近の屋外給湯機は、凍結防止ヒーターが組み込まれています。必ず電源プラグを差しておいて下さい。

ガス機器のことなら蒲原ガスが最寄りのサービスショップへご連絡下さい

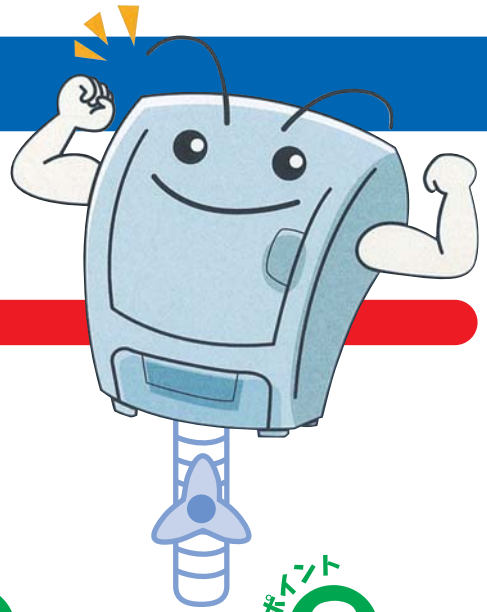
蒲原ガス

営業課

TEL 70-1000  
FAX 72-7481

# 凍結を予防するために

凍結トラブル予防は、ガス給湯機本体の凍結防止と給水管の凍結防止の2本柱が基本です。



## ガス給湯機本体の凍結防止策

ご使用機器に応じて内容が異なりますので、まず、ご使用機器の取扱説明書をよく読んでいただき、その内容に従って凍結防止策を実施していただくことが大切です。

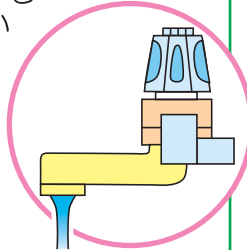
ポイント

1

### 通水による方法

必ず機器のガス栓を止め(リモコンの運転スイッチを「切」にしてガス栓を閉める。)、給湯栓から水を流して下さい。(えんぴつの芯くらいの大きさ。寒い日は少し多めに。)

※この方法は機器本体だけでなく、給水管、バルブ類の凍結も防止できます。



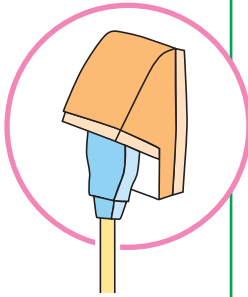
ポイント

2

### 凍結予防ヒーターによる方法

(凍結予防ヒーター内蔵機器のみ)

※電源プラグは必ず差しておいて下さい。リモコンの「入/切」は関係ありません。



ポイント

3

### 水抜きによる方法

機器の取扱説明書に従って下さい。

注意

②③の方法は機器本体のみの凍結防止措置です。

## 給水管の凍結防止

給水管が凍結してしまうと、ガス給湯機本体に異常がなくても、ガス給湯機がご使用できなくなります。

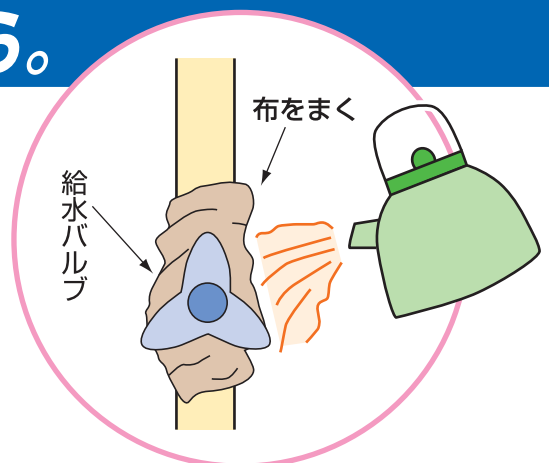
特に給水バルブや給水管の露出部に保温材の巻かれていない場所があると凍結しやすくなります。事前に保温部の点検と補修工事等の対策の実施を心がけましょう。

また、給水管の凍結防止には、通水による防止策が有効です。

## もしも、凍結してしまったら。

もしも、凍結してお湯がでなくなった場合、まず次のことを試みて下さい。

吸水管が凍結している可能性がありますので、給水バルブに布をまき、50℃前後のお湯をかけるか、ドライヤーをあてるなどして、吸水管の凍結をとかす措置を講じて下さい。



# 蒲原ガス